

自由のともび

JIYU NO TOMOSHIBI

- 企画展「近世土佐の災害」報告
- 学校教育連携事業「社会科自由研究作品展」報告
- 自由民権記念館周辺「民権史跡マップ」
- 資料紹介：片岡(健吉)家資料「同志社大学設立旨意書」

VOL.
74
2013
March



職場体験学習で民権史跡調査「板垣退助先生邸址」—当館では学校教育連携事業で自由民権運動を中心に郷土の歴史を学習します。ここに紹介の事業のほか学校団体観覧での展示解説や教材上映、学校等への出前授業なども行っています。



特別賞受賞者記念撮影



夏休み子ども歴史教室

● リレーエッセイ

高知の子どもたちへ

「歴史とはなんでしょう、と聞かれるとき、『それは、大きな世界です。かつて存在した何億という人生がそこにつまこまれていて世界なのです。』と、答えることにしている。私には、幸い、この世にたくさんすばらしい友人がいる。歴史の中にもいる。そこにはこの世では求めがたいほどにすばらしい人たちがいて、私の日常を、はげましたり、なぐさめたりしてくれているのである。」

これは、小学六年国語の教科書にも載せられた司馬遼太郎先生の「二十一世紀に生きる君たちへ」の一節である。私は、未来を託す子どもたちへの珠玉のメッセージで満ちているこの話を、中学生たち、特に卒業を控えた三年生に紹介するようにしている。

学校では、今、「志」の教育を進めている。自由民権のうねりがこの地から起こり、国を愛い、志を持ち、私心を捨て、公のために東奔西走した数多くの土佐の先人たちのことを、子どもたちに教え、伝えていかなければならない。学校では、社会科、道徳、総合的な学習の時間がその中心となる。そして、子どもたちの学びをさらに豊かなものとするために、学習の場所や機会を外へ広げていかなければならない。

自由民権記念館は、多彩な企画展や、「自由は土佐の山間より」と題した出前授業を実施している。自由民権記念館は、人権・平和を学ぶ場であり、「この世では求めがたいほどにすばらしい人たち」と出会う場である。子どもたちが、それらのすばらしい人たちに、時には、はげまされ、時には、なぐさめられればと願う。

高知の未来を担う子どもたちが、ますます郷土を愛し、郷土に誇りを持ち、それぞれの道をたくましく進んでいくことを願ってやまない。

自由民権記念館協議会会長
高知市立土佐山中学校校長

依岡 誠児

高知市史近世部会連携展参加
 — 知らなかったこんな土佐 in 江戸時代 —
 平成24年度企画展報告
「近世土佐の災害」

平成24年度企画展「近世土佐の災害」を10月17日(水)から12月9日(日)まで2階特別展示室で開催いたしました。

この企画展は、高知市史編さん委員会近世部会連携展「知らなかったこんな土佐 in 江戸時代」の一環でおこなったもので、江戸時代の土佐を襲った災害のうち、火災・風水害・震災を取り上げて展示しました。

以下、その概要を紹介します。



企画展「近世土佐の災害」会場

一 火災

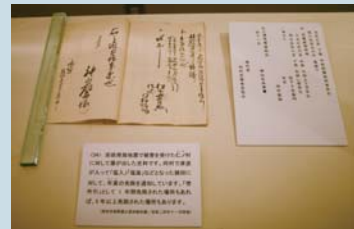
災害のうち、特に城下に被害をあたえたものは火事です。展示では、「此国初りて後いまたあらざる大火」(「弘列筆記」)といわれた元禄の大火、高知城の天守・本丸・二の丸・三の丸をはじめ、多くの建造物が焼け落ちた享保の大火のほか、会所焼・俵屋焼などを取り上げました。

また、火災に対する近世の対策についても紹介しました。そのなかで、現在でも城下町などでよくみられる秋葉神社を取り上げました。現実的な防火体制とはいえないかもしれませんが、それでも防火に対しては神様の力も頼るところに興味を感じていただきました。



秋葉神社を祀る (高知)

安政2年仁ノ村宛宛紙



春秋自記帖

二 風水害

土佐は太平洋に面して雨量も多いため、台風による被害はおびただしいものがあります。また、高知はかつて「河中」といわれたように、特に城下は水害に多く見舞われてきました。展示では、毎年のように起る風水害のうち、「御入国以来之損亡」といわれた寛文6年、のちに多くの餓死者を出した元禄15年の風水害などを、その被害状況とともに紹介しました。さらに、堤防や水丁場の石柱などの写真も展示し、風水害予防の設備や制度なども説明しました。

三 震災

現在注目を集めている南海地震ですが、江戸時代には3回発生しています。すなわち、慶長南海地震、宝永地震、安政南海地震です。このうち、この3回の南海地震でもっとも規模が大きく、甚大な被害をもたらした宝永地震と資料が多くこのこつている安政南海地震を中心に展示しました。

宝永地震は、奥宮正明による記録である「谷陵記」(高知県立図書館蔵)を展示し、それに記されている土佐沿岸部の津波被害など、地震による惨状を紹介しました。これに対して、安政南海地震は、個人の日記や記録類を中心に展示し、その生々しい様子を紹介しました。幕末の有名な絵師である絵金が、地震のときの人々を風刺的に描いた「絵本大変記」(高知県立図書館蔵)も展示しました。

災害時における土佐藩や各村の救済制度などについても展示しました。

私たちは、残された史料や石碑から過去の災害について知ることが出来ます。災害の記録が多くこのこされている理由は、先人たちがこの情報を後世に伝え、活用してもらいたいと願ったからにはありません。そうした先人たちの努力に報い、貴重な情報を活用すること、それがこの企画展の目的です。



関連企画シンポジウム 一民権ホール
 「武士の世界」・「民衆の世界」(2部構成)

第13回

社会科学自由研究作品展報告

前期 平成25年1月19日(土)～2月3日(日)
後期 2月5日(火)～2月20日(水)



平成25年1月19日から2月20日まで
会期を前期・後期に分けて、第13回社
会科自由研究作品展を高知市教育研究
会社会科学部会との共催で開催しました。
この作品展は、当館開館10周年を記
念して始まり、13回目となります。今回
は、震災対策や環境問題、歴史学習など
自らの体験を踏まえた力作揃いでした。
応募点数は、小学校31校、中学校2校
から、合計283点でした。

当館と社会科学部会の先生方による厳正
な審査も行われ、応募作品の中から37点を
特別賞に選定しました。2月3日(日)には
表彰式を開催し、受賞者やご家族の方約1
50名にご参加いただきました。受賞作品
のうち、各分野での最優秀作品を下表でご
紹介します。
なお、期間中は約1,126名の方に
観覧いただきました。
ありがとうございました。



特別表彰式



作品展示会場

自由民権記念館特別賞

分野	作品名
産業・交通	10才のハローワーク
秦小中学校5年	仲田 桜介
〔講評〕	漁師になりたいという夢に向かい興味・関心を追求した研究作品です。知りたい事柄に関連した人々に手紙を書き、その返事をもとにさらに研究を深めていきました。資料の新聞や写真もよく分かりました。意欲が全面に出たすばらしい研究でした。
総合	日本の未来に向けて 子ども国会に参加して
介良潮見台小学校6年	小松 駿一
〔講評〕	子ども国会の様子、体験したこと考えたことが、資料や写真、発表原稿もあり、とてもわかりやすくまとめられています。友情を深めるような人とのつながりの大切さを改めて考えることができました。
地理・文化	2012年版 ぼくの国旗辞典
高知大学教育学部 附属小学校6年	山崎 大智
〔講評〕	世界の国旗を一つ一つ丁寧に調べ、まとめることができています。また、太陽や月を使った国旗、似たような国旗というふうな様々な部に目を付けまわられています。そして何より、94ページにわたり熱心に1ページずつ仕上げた努力が素晴らしいです。
環境	わたしたちの身近な川
昭和小学校3年	安芸 悠子・安芸 怜子
〔講評〕	河口近くの川の流れに目をつけて観察した作品は今までなかったと思います。あたり前の景色に愛着のあるコメントがすでにできています。
分野	作品名
人物	吉田東洋
朝倉第二小学校5年	山本 瑛介
〔講評〕	東洋の魅力に気づき調べたことがすばらしい。彼が藩政政治の中でどんなことを考え、どのような働きをしたか難しかったと思いますが、自分のことばで書き、さし絵もとても楽しい。楽しんで研究を進めたことが伝わります。誇れる郷土の人物についてこれからも発信してください。
歴史	浦戸湾物語 国分川・舟入川の流域に住んで
大津小学校6年	島崎 遥也
〔講評〕	わたしたちの住む高知市の歴史は、浦戸湾の歴史と共にあります。入り江の狭い湾の入口から奥に広がる浦戸湾は、魚の宝庫です。その湾が、調べてくれた通り、危機的な時代もありました。今の浦戸湾は、魚の種類が500種にもなります。これからも、浦戸湾を愛し、みなさんの時代には、さらに美しい浦戸湾にしてください。
地域・福祉	くらしの中のサイン 身の回りのマークをさがせ!
横内小学校4年	大坪 拓人
〔講評〕	自分の経験の中からテーマをみつけ、見通しを持った調べ方ができています。調べる中で気づいたこともたくさんあり、とてもすばらしい作品です。
体験	とろろでんづくり
横浜新町小学校3年	竹田 萌絵・竹田 璃皇
〔講評〕	とろろでんづくりのたいへんさがよくわかる作品です。ぜひ自分でもとろろでんを作ってみてください。



⑧ 発陽社跡

所在地：天神町(用水路沿)

1877(明治10)年、潮江村に結成された。発陽社から機関紙『江南新誌』を発行するなど、立志社傘下の有力な民権政社の一つである。主な民権家としては北川貞彦、弘瀬重正、宮地茂春、徳弘馬域郎等がいる。



⑨ 海南自由党結成の地

所在地：筆山町(要法寺)

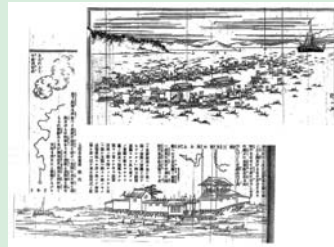
1882(明治15)年5月7日、要法寺において、高知県7郡の民権派の総代百余人が集合し、海南自由党結成集会を開催し、「海南自由党規約」と「規則」を議決した。常備議員には片岡健吉、武市安哉など5人が選ばれた。



⑩ 板垣退助邸跡

所在地：萩町2丁目
(東洋電化工業入口横)

この地は板垣退助(1837—1919)の邸跡である。この邸は、山内家が板垣の東征の功を讃えて与えた釣御殿といわれる。自由民権期の板垣の本邸として使われ、1877(明治10)年以降、県内外の多数の民権家がここを訪れた。



⑪ 板垣退助帰朝記念碑

所在地：新田(鏡川南岸堤防の上)

1883(明治16)年6月、板垣退助が外遊より帰朝、同年8月29日、浦戸丸にて帰高したとき、土佐の人々は数百艘の小船で出迎えた。歓迎に集合した人は「無慮五千人」と新聞は報じている。



① 自由民権記念館

所在地：棧橋通4丁目

1990(平成2)年、高知市制100周年を記念して、自由民権運動の資料を中心に土佐の近代に関する資料を広く収集、保管、展示して、確実に次の世代へ引き継いで行くために自由民権記念館が建設された。



⑫ 丸山台

鏡川の河口に浮かぶ小島である。この丸山台に在った此君亭にて板垣帰郷歓迎の盛大な宴が催された。丸山台の中央には、「其ノ盛観実ニ未ダ嘗テ見サル所」と記した記念碑がある。



⑥弘瀬重正顕彰碑

所在地：塩屋崎町1丁目(潮江西の丸公園内)

弘瀬重正は、1860(万延元)年7月潮江村に生まれた。自由民権運動に挺身。1891(明治24)年、本村の村会議員となり、1898(明治31)年、村長に選ばれ再選十年勤務した。村長就任中、潮江のために残した事業はきわめて多い。



⑦岡本方俊記念碑

所在地：塩屋崎町1丁目(潮江西の丸公園内)

岡本方俊は、1866(慶応2)年4月潮江村に生まれた。自由民権運動に挺身、その後特に文筆戦を重視し、『土陽新聞』のほか更に日刊紙発行の必要を力説、1904(明治37)年、『高知新聞』を創刊した。



⑤横山又吉胸像

所在地：棧橋通2丁目(アスパルこうち玄関横)

横山又吉は、自由民権運動家として活躍の後、1898(明治31)年、簡易商業学校(翌年高知商業学校と改称)を創立し、名校長として知られた。その後1917(大正6)年、高知商業銀行頭取に就任するなど、高知県の商業発展に尽した。



④竹内明太郎胸像

所在地：棧橋通2丁目(高知工業高等学校玄関前)

竹内明太郎は、実業家、政治家である。かれは、父綱と共に「私立高知工業学校」創立に参加し、その運営を図り、本校発展に多大なる功績を残した。又、早稲田大学理工科の新設に尽力するなど産業教育の振興に貢献した。



③竹内綱胸像

所在地：棧橋通2丁目(高知工業高等学校玄関前)

竹内綱は、自由民権運動家、政治家、実業家である。かれは、1912(明治45)年、高知県発展の基礎を作るため「工業富国の基」の理念から工業技術者の養成を目指し、息子の明太郎と共に「私立高知工業学校」現在(県立高知工業高等学校)を創立した。



②自由民権通り碑

所在地：棧橋通2丁目(高知工業高等学校正門前)

この地周辺は、自由民権記念館、板垣退助邸跡碑、竹内綱、横山又吉の胸像、弘瀬重正、岡本方俊の顕彰碑、島本仲道誕生地などがあり、はりまや橋から棧橋通五丁目までのことを、愛称「自由民権通り」と呼ぶ。



平成25年4月1日から
指定管理者が変わります

平成22年4月1日から当館施設管理業務に指定管理者制度を導入しています。

平成25年4月1日よりイヨテツケーターサービス(株)から(株)土佐電ビルサービスに変更になります。

なお指定管理者の業務は、①自由民権記念館の施設の利用の許可に関する業務、②自由民権記念館の維持管理に関する業務となっております。学芸企画業務は、これまでどおり高知市のスタッフで行います。引き続きよろしくお願いいたします。

【あこがれ】

株式会社 土佐電ビルサービス

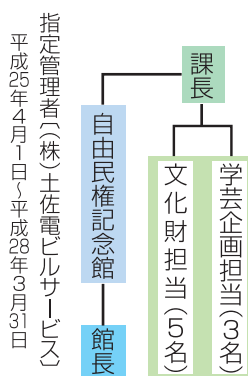
この度、指定管理者に指定されました「土佐電ビルサービス」です。

自由民権記念館には、幕末の土佐の志士達から受け継がれた近代日本の基礎作りとなる「自由民権運動」を起こした偉人たちの足跡などの貴重な資料・文献が集められています。しかしながら、地元高知でも自由民権記念館へ「行ったことがない」「どこにあるのか知らない」「何を展示しているのか解らない」などその存在があまり知られていないのが残念です。

私たち高知市民の誇りである素晴らしい自由民権記念館を、まず地元高知の方々に広く知ってもらい、ご来場して頂



自由民権記念館事務局体制 組織図
高知市教育委員会事務局
民権文化財課



くため「路面電車」を活用した宣伝・広報に取り組んでいきます。また2階常設展へのご来場の方には、できるだけ展示されている歴史的に貴重な資料・文献を解りやすく案内に努めて参ります。

路面電車をはじめ、土佐電鉄グループの各事業部のノウハウで施設運営をする。ことで「自由民権記念館」の活性化と地域の文化教育への貢献を目指して参ります。今後ともよろしくお願いいたします。

高知市指定管理者審査委員会
指定候補者の審査結果について

1 対象施設等
〔名称〕 高知市立自由民権記念館
〔指定予定期間〕
平成25年4月1日から
平成28年3月31日まで(3年間)

2 申請団体(5団体)

- (1) 株式会社土佐電ビルサービス
- (2) 有限会社生活創造工房
- (3) イヨテツケーターサービス株式会社
- (4) 特定非営利活動法人ワークスみらい高知
- (5) 株式会社あなぶきクリンサービス

3 審査結果

- (1) 審査委員会開催日
第1回審査委員会
平成24年10月25日(木)
第2回審査委員会
平成24年11月6日(火)

(2) 審査方法

申請団体から提出された書類の審査及び団体ごとの面接を実施し、高知市公の施設に係る指定管理者の指定手続等に係る条例(平成17年条例第69号)第4条の規定による選定基準に基づき6名の審査委員が採点を行い、申請団体ごとに得点を合計した。

(3) 審査結果

総得点 株式会社土佐電ビルサービス
919点(1200点満点)

(主な評価内容)

主要業務である施設の維持管理面で、安定的な運営が可能と考える。また、地元企業としての地域に対する思いが何え、電車媒体の活用などグループ企業と連携した集客等の取組も期待できる。歴史・文化面の取組に関しては、他の申請団体からも熱意ある提案があったところであり、専門性をより強化し、施設の特徴を活かした生涯学習支援がなされるよう望みたい。

【高知市指定管理者審査委員会 審査集計表】

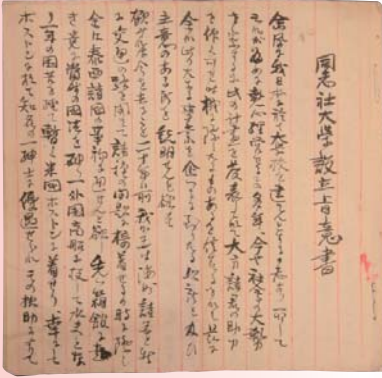
高知市公の施設に係る指定管理者の選定手続等に関する条例第4条(指定候補者の選定等)	評価項目	採点(満点)	A団体 土佐電ビルサービス	B団体	C団体	D団体	E団体
運営方法が、市民等の平等な利用を確保することができること	1 指定管理者応募の動機 2 利用者の要望の把握 3 地域との連携他施設との連携	180	148	142	150	140	102
設置の目的に照らし、その管理を効率的かつ効果的に行うことができること	4 事業計画 5 今後の展望	240	180	173	173	164	137
管理を的確に遂行するに足る人的構成及び財産的基礎を有するものであること	6 事業者概要 7 運営体制 8 施設維持管理 9 利用者の安全確保	240	190	194	175	128	152
収支予算書の内容が、施設の管理経費の縮減が図られるものであること	10 収支状況	240	177	178	166	122	138
個人情報取扱いを適正に行う体制が整備されていること	11 個人情報の保護	60	47	49	47	46	44
市長等が施設の性質又は目的に応じて定める基準	12 歴史・文化行政への貢献	240	177	168	189	201	114
合 計		1,200	919	904	900	801	687

片岡健吉資料より 同志社大学設立旨意書

大河ドラマ「八重の桜」にちなみ、新島襄に関わる資料を紹介しよう。

当館の寄託資料、同志社第五代社長を務めた片岡健吉の遺品の中に、「同志社大学設立旨意書」と題する文書がある。長文で、朱野の用紙に毛筆で書かれ、末尾に「千八百八十八年十一月 京都同志社総理 新島襄」との記載がある。この年、片岡は保安条例違反で在監中の身であったから、これは後年、同志社社長時代に入手したものと見てよからう。

新島が京都に同志社英学校を開校したのは明治八年だった。翌年、徳富猪一郎（蘇峰）が入学する。少年の目には、新島夫人・八重の風采が、日本ともつかず西洋ともつかず、鶴（ぬえ）のように映り、敬愛する新島先生に余りにも馴れ馴れしく振る舞う態度がすこぶる不快で、同志社の演説会で大声疾呼して攻撃したこともあったという。蘇峰の新島に対す



同志社大学設立旨意書

る敬愛は終生変わらず、明治二十一年、同志社大学設立の運動が始まると、その依頼に応じて「同志社大学の主意書なるものを起稿」する（『蘇峰自伝』）。

蘇峰執筆の「旨意書」全文は、同年十一月十日から十六日まで『土陽新聞』にも連載された。自治自立の人民養成を私立大学の長所に挙げ、キリスト教主義を同志社大学徳育の基本にすることを格調高く表明。一国の維持は、教育あり、知識あり、品行ある人民の力によると説き、同志社大学の目的は、この一国の良心とも言うべき人々の養成にあると宣言している。次いで、同月二十五日には、土陽新聞社もふくめて全国三十九新聞社連名の「同志社大学義捐金募集取扱広告」が掲載されている。

さて、片岡遺品中の毛筆の旨意書を、発表された旨意書に照合してみると、表現、字句はかなり異なる。しかし、全体の構成及び文意は完全に一致し、随所に残る推敲の跡からみて、明らかに旨意書の初稿、あるいは草稿と判断される内容である。名前が「襄」と間違っただけであることも、依頼に応じて起稿した蘇峰の草稿では、と思わせる。果たしてこれが有名な「旨意書」の草稿かどうかは今後の検証が必要で、目下のところは、何とも気がかりな資料と言っしかなない。

新島襄は、板垣退助、植木枝盛と交流があり、同志社大学図書館には植木の旧蔵書が寄贈されて「植木文庫」と呼ばれている。西原清東、片岡健吉が二代続けて社長を務めたことも、同志社と土佐との強いつながりを印象づけている。

民権家入物録



にしもと なおたろう
西本 直太郎
(1858~1937)

安政五（一八五八）年一月十日、西本二郎馬、糸の長男として土佐郡潮江村に生まれた。

北川貞彦のあとを継いで民権結社・発陽社の第二代社長となり、同社の政談演説会で自由民権を唱道。さらに立志社の弁士組合乙組に属して、坂本南海男らと県下各地を遊説し、最盛期の土佐自由民権運動を代表する花形弁士の一人となった。明治十五（一八八二）年七月十六日、発行禁止となった『高知新聞』の葬式では、香雲閣（こうんかく）（下の新地の料亭・此君亭（しくんてい）の別館）で行われた祭宴で悲壯の演説を行っている。特に第一回総選挙（二十三年）に向けての遊説活動はめざましく、高知県下七郡中、その足跡の及ばぬ所はなかった。

一方、政治活動のかたわら独学で法律を学び、明治十六（一八八三）年一月に代言人を開業。翌年五月、法律学校「法学館」が開校すると、治罪法、刑事訴訟法の前身の講義を担当するなど、法学教育にも力を注いだ。

明治二十年秋、発陽社員岡本方俊、西内正基が爆弾製造中に爆発して重傷を負う事件が起こる。翌年開かれた爆発物取締罰則違反事件公判で、西原清東、北川貞彦と共に弁護にあたった。裁判は、岡本、西内が重禁錮二年・罰金二十円に処せられて決着した。

また、明治十七年頃から高知水産会設立発起人となり、高知県海面漁業組合幹事に就任するなど、明治の県水産界に残した功績も見逃せない。

明治二十二（一八八九）年四月、市制・町村制施行により潮江村が発足すると、選ばれて初代村長に就任。さらに高知弁護士会長、高知新聞社理事長などを経て、大正十四（一九二五）年、高知市長に就任した。在職期間は、昭和二（一九二七）年七月の退職まで二年余と短かったが、この間、潮江村の高知市編入、都市計画の推進などの功績があった。

昭和十二（一九三七）年十月二十日、八十八歳で没す。高知市が見渡せる場所に」との遺言で、墓は高知市西久万蟻ヶ谷の山頂にある。

（三月中旬刊行）
民権史跡めぐり必携書

『史跡ガイド・土佐の自由民権』

□□公文家著／高知新聞総合印刷発行
□□定価二二〇〇円／三三〇頁（予定）

民権百年から三十年。地域の「民権掘り起こし」の成果をもとに、高知県内の民権史跡を網羅し紹介する。土佐の自由民権研究の手引き書としても役立つ好著となっている。

常設展示 Q&A

- 15 -

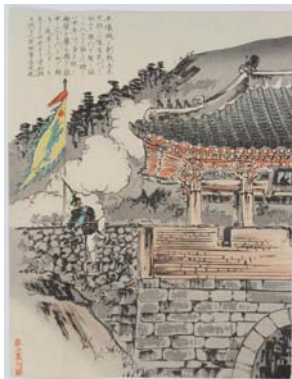


Q 第1展示室の自由万歳に「懇親会席上演説絵馬」、第2展示室に「自由大懇親会群像」が展示されていました。自由民権運動のなかで懇親会はどのような役割を担ったのですか。教えてください。

A 自由民権運動の高まりと共に、高知県各地で懇親会が度々催されました。市街地では町ごとに或いは職業別に開かれ、郡部では村ぐるみ運動となりました。やがて町村での連合に拡大し、さらには郡や県単位となります。その規模、数千人から数万人になりました。

新聞報道によれば、村の懇親会では、「演壇を争うもの20名を下らず」という状況となり、大規模な懇親会では演壇を5ヶ所も6ヶ所も設けたようです。人々は、それぞれの町や村で開設された夜学会での勉強成果を懇親会で発表しあったのです。夜学会が盛んになるほど懇親会も盛んになりました。民権派だけでも150ヶ所も設けられたのです。

展示資料「日清戦闘画報」第一編附録



1894(明治27)年、日本と中国(清)との間でおこった日清戦争は、日本としては近代になってはじめての本格的な対戦争でした。新聞はこの両国の関係を取り上げ、さまざまな論調で報道しました。

今回の展示は、日清戦争をテーマに、新聞などのメディアがこの戦争およびこの前後の状況をいかに報道したのかということを紹介したいと思います。

そして、それを通じて戦争とメディアが社会にあたえた影響を考えていきます。

本展では、メディアは情報の記録・伝達・保管などに用いられるものとして扱います。そのため、新聞などの報道に関するもののほか、錦絵や小説、記念碑などもメディアととらえ、それらも合わせて紹介することにしています。

ご鑑賞いただきますようお願い申し上げます。

企画展 「日清戦争とメディア」のご案内

― 会期 3月23日(土)～5月19日(日) 2階特別展示室 ―

企画展「日清戦争とメディア」合同企画
 高知近代史研究会(第68回)のご案内

〔テーマ〕 『自由新聞』の戦争メッセージ
 〔報告者〕 松岡 信一(当館館長)

自由党は、金玉均暗殺・東学党の乱に対して、いち早く義戦論を提起し、国内対立の停止を求め、以後国民の戦争熱を煽り続ける。そこには、明治10年代自由民権運動全盛期の自由新聞に見られた小国家論は跡形もない…

■2013年5月11日(土) 15時～17時 / 自由民権記念館 1階民権ホール
 ■入場無料 当日会場へ、どなたでも自由に参加できます。

(お問い合わせ先) 自由民権記念館内 高知近代史研究会事務局

自由帳から

■板垣さんすごいよなあー。めっちゃ尊敬しとんやねんけど。昔の人すごいなあー。ここに来てほんま良かった。(岡山)

■高知を国の歴史の中で確認したくなり来ました。土佐人がさまざまな思想をもって自由民権運動に加わっていったことに胸が熱くなりました。(高知)

■自由民権運動の中心人物が皆さん大変若いこと、懇親会があらゆるところで開かれていたこと、その方法も、さまざまに工夫されていることに驚きました。(札幌)

■明治の言論界と立志学舎と慶応義塾の結びつきを初めて知りました。また、土佐から多くの著名人がでていることを知って驚きました。共通は情熱と反骨精神だ。(東京)

■明治期の人々の政治への思いは、とても熱心なものだなとよく分かりました。今の我々も見習いたいものです。(香川)

― 多くの方々にご来館・ご記憶いただきました。ありがとうございます。 ―

自由民権記念館出版物のご案内

○紀要第20号
 (2012年12月20日発行 頒布500円)

〔論文〕

- ・鈴木安蔵の高知調査と植木枝盛憲法草案の確認―静岡大学「鈴木安蔵関係資料」の紹介 田村 貞雄
 - ・土佐の要馬術 長山 昌広
 - ・後藤象二郎と開成館 今井 章博
- ～新出資料をめぐって

○連携展示 総合図録

知らなかったこんな土佐 in 江戸時代
 ・当館企画展『近世土佐の災害』等解説
 一高知市史編さん委員会近世部会 編
 (2012年9月21日 / 高知市発行)

